

東伊豆町  
トンネル長寿命化修繕計画

令和5年3月 策定

令和7年10月 変更

東伊豆町 建設整備課

## 1. はじめに

本町が行うトンネル長寿命化修繕計画の対象である新白田トンネルは 1982 年に整備され、令和 5 年には 41 年が経過する。

今後、トンネルを効果的かつ効率的に維持管理していくために、長寿命化修繕計画を策定し、計画的に定期点検と修繕計画を行っていく。

## 2. 維持管理目標

### 2.1 維持管理区分

維持管理区分は、トンネル本体工、付属施設とともに「予防保全管理（状態監視型）」で実施する。

トンネル本体工については、定期点検により、トンネルの変状の状態を監視し、管理上対策が必要と判定された（目標管理水準を下回った）段階で、対策を実施していくことを基本とする。

付属物については、点検により施設の機能を確認するとともに、機器や部品の劣化状態を監視し、施設の機能が喪失する前の適切な時期に、計画的に更新を行っていく。

### 2.2 維持管理指標と維持管理水準

維持管理指標は、トンネルの変状毎の「健全度ランク（5段階区分）」とする。

維持管理水準は、限界管理水準と目標管理水準の考え方がある。限界管理水準は、健全度ランクⅣとⅢとの境界、目標管理水準は健全度ランクⅡaとⅢとの境界とする。

新白田トンネルの維持管理においては目標管理水準とし、予防保全段階で適切に対策を行い、健全な状態を維持することを目標とする。

### 3.老朽化対策における基本方針

#### ①対象施設

東伊豆町が管理するトンネル（新白田トンネル）

#### ②計画期間

計画期間は 10 年とする。

#### ③個別施設の老朽化の状況

築造から 40 年近くが経過しており、経過観察を要する損傷が見られる。

#### ④対策の優先順位の考え方と目標

管理対象は新白田トンネルのみのため、対策の優先順位は特に設けない。

### 4.新技術等の活用方針

新白田トンネルを適切に維持管理していくにあたり、修繕や点検等に係る新技術等の活用の検討を行うとともに、費用の縮減や事業の効率化等の効果が見込まれる新技術等については積極的に採用していく。

・活用にあたっては、適用性、有用性、安全性等を十分に考慮した上、協議により決定する。

・検討する新技術については「点検支援技術性能カタログ(案) 国土交通省」に掲載されている技術を参考にし、妥当性を検討する。

令和 14 年度までに新技術を活用した点検や修繕を実施し、維持管理コストを約 1 割程度縮減することを目指していく。

### 5.費用の縮減に関する具体的な方針

新白田トンネルは 1 級町道に位置しており、稲取地区と白田地区を結ぶ地域にとってなくてはならないトンネルであり、国道 135 号の緊急時迂回路として重要な役割を果たしている。山間部の迂回路は狭小で普通車の通行が困難なことから、現時点では集約化・撤去を行うことは困難である。

将来的に利用状況に応じて重要度が提起した時には撤去・集約化、機能縮小による費用縮減を検討していく。